

**海老名市立有馬小学校 学校運営協議会 議事録**  
**(令和3年度 第2回)**

- 1 日時** 令和3年11月5日(金) 10:00~12:00
- 2 場所** 海老名市立有馬小学校 会議室
- 3 出席委員** 石川榮一委員長、古郡宗正委員、鈴野トミ委員、  
二見隆江委員、小松明委員、山口慎二委員、  
渡部美保委員、遠藤一義校長、木下優子教頭

**4 会議の内容**

**(1) 委員長挨拶**

石川委員長：コロナ禍でも、通常に近い形で学校を運営してくれていることに対し感謝している。

**(2) 学校長挨拶**

遠藤校長：9月以降感染状況も改善される中、スポーツデーと修学旅行を実施することができた。またこの後も5年野外教育活動と、ありまっ子スクールやはるにれフェスタを応援団やPTAの力をお借りして開催予定である。さまざまな協力体制に感謝している。

**(3) 授業参観を通して**

古郡委員：休み時間の参観では、授業とは違った素の姿に触れ安心した。

山口委員：タブレットを開いている児童もおり、時代を感じることができた。

二見委員：低学年が挨拶をしてくれて、温かい雰囲気を感じた。また、5年生の社会で専科教員の授業を見たが、中学への準備としてよいと感じた。

石川委員長：中学との交流の効果はどれくらいあるのか。

遠藤校長：以前は6年生の算数や理科の授業交流があったが、今は中断している。しかし、今の感染状況なら3学期に1回でも実施したいと調整している。

鈴野委員：教室にゆとりがあり、本時の目標がきちんと明示されている授業が行われていた。

**(4) 令和3年度の有馬小学校の現状と課題～令和4年度に向けて**

山口委員：修学旅行が実施できてよかった。子供同士がつながる良い機会となった。

小松委員：感染症の怖さは、人と人とのつながりを断ってしまう怖さがある。今の状況が、何年か経った後の子供たちにどう影響するかを見てい

く必要がある。

古郡委員：日常が回復した時に、大人がどう手を差し伸べるかが大切だ。

渡部委員：学校に来ることがなくなり、子供たちやほかの保護者と会う機会が減ってしまった。マスクなしで遊ばせたい。

遠藤校長：（学習状況調査児童質問紙等から見える、本校のストロングポイントとウィークポイントを説明した。）この後の論点として学力向上についてご意見をいただきたい。

古郡委員：学習指導要領が改訂され、「主体的で対話的な深い学び」が提唱された。これはとても良いことだと感じるが、現場で日々の授業にどう生かしていくかが大切だ。

渡部委員：学校で学習していることが「上書き保存」されているような感じではないか。新しいことを学習すると過去に学習したことが消えてしまうように見える。

二見委員：授業力は経験によるところが大きい。しかし、先生方の授業力はどんどん向上していると思う。

石川委員長：学力向上はどうしたら進むのか。

木下教頭：学力向上は全職員が意識をして取り組んでいる。また、家庭と連携することでより効果的に進むことが多い。

渡部委員：家庭でも、勉強のことやスマホの使い方など、子供と話す機会を増やす必要がある。

二見委員：大人が子供たちに、勉強する意味をきちんと教えていくことが大切だ。

古郡委員：まず「学力」の定義がはっきりしていないところで学力向上といっても難しいところがある。先日ノーベル賞を受賞した真鍋叔郎さんが言っていた「好奇心」を子供たちに持たせることができればとても良い。

## （５）その他

次回の第３回学校運営協議会は、令和４年２月１８日（金）１３：３０から開催予定。